

注 意 報

8 病 第 2 3 号
令和 8 年 9 月 2 5 日

関係各位

京都府病虫害防除所長
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので送付します。

病虫害発生予察注意報第 6 号

- 1 作物名 黒大豆・小豆
- 2 病虫害名 吸実性カメムシ類
- 3 発生地域 府内全域
- 4 加害時期 開花期から収穫期まで
- 5 発生量 平年比多い
- 6 防除時期 着莢期から子実肥大期
- 7 注意報発令の根拠
 - (1) 9 月中旬に行った黒大豆の巡回調査では、寄生株率は 10.5% (平年:2.4%)、25 株当の虫数は 5.0 頭 (平年:1.1 頭) と平年比多い。
 - (2) アオクサカメムシの予察灯 (60W) (8 月第 3 半旬～9 月第 2 半旬の合計) は、京田辺市及び亀岡市で誘殺を認めず (平年並)、京丹後市で 2 頭 (平年:0.2) と平年比多い。
 - (3) イチモンジカメムシの予察灯 (60W) への誘殺数 (同上) は、京田辺市で誘殺を認めず (平年並)、亀岡市で 1 頭 (平年:2.1 頭) と平年並、京丹後市で 3 頭 (平年:0.4 頭) と平年比多い。
 - (4) イチモンジカメムシの予察灯 (BL) (同上) は、京田辺市及び京丹後市で誘殺を認めず (平年比やや少ない)、亀岡市で 1 頭 (平年:3.1 頭) と平年比やや少ない。
 - (5) イチモンジカメムシのフェロモントラップへの誘殺数 (同上) は、亀岡市で 0.3 頭 (平年:9.2 頭) と例年比やや少ない。
 - (6) ホソヘリカメムシのフェロモントラップへの誘殺数 (同上) は、京田辺市で 129.1 頭 (平年:69.7 頭) と例年比やや多く、亀岡市で 52.9 頭 (平年:36.9 頭) と平年並、京丹後市で 83.8 頭 (平年:30.7 頭) と例年比多い。
 - (7) ミナミアオカメムシの予察灯 (60W) への誘殺数 (同上) は、京田辺市で 1 頭 (平年:1.9 頭) と平年並、亀岡市で 4 頭 (平年:16.3 頭) と平年並、京丹後市で 9 頭 (平年:0.1 頭) と平年比多い。
 - (8) ミナミアオカメムシの予察灯 (BL) への誘殺数 (同上) は、京田辺市で 1 頭 (平年:1.3 頭) と平年並、亀岡市で 10 頭 (平年:19.9 頭) と平年比やや多く、京丹後市で誘殺を認めていない (例年並)。
 - (9) 9 月 17 日発表の大阪管区気象台発表の 1 か月予報では、向こう 1 か月の気温は平年比高いと予想され、今後も吸実性カメムシ類の増殖や活動に好適な気象条件が続くと予想される。



写真1 アオクサカメムシ成虫
体長 12～16mm (触角が黒色)

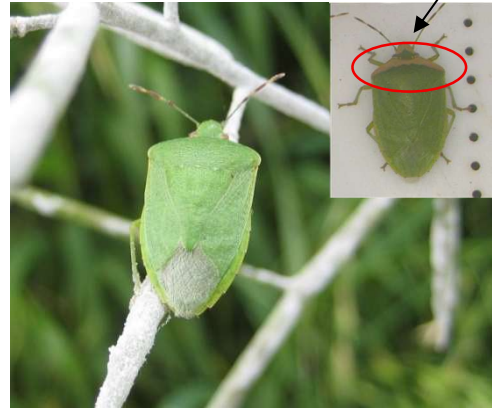


写真2 ミナミアオカメムシ成虫
体長 12～16mm (触角が褐色)

※アオクサカメムシとミナミアオカメムシは似ているが、触角の色で識別できる。また、アオクサカメムシ、ミナミアオカメムシとも白色の帯状がみられる個体もいる。



写真3 イチモンジカメムシ成虫
体長 9～11mm



写真4 ホソヘリカメムシ成虫
体長 14～17mm

8 防除上の留意事項

- (1) クズやレンゲ等の雑草が自生する場所は好適な発生地となりやすく、このような場所が周辺にある場合は、カメムシ類の被害を受けやすい。
- (2) 開花期直前から着莢期に成虫が飛来し、吸汁や産卵をする。成虫は好適な餌がある場所を求めて移動するが、幼虫はそのまま滞在し、黄熟期まで加害し続ける。
- (3) 黒大豆における吸実性カメムシ類の防除適期は、着莢期から子実肥大中期である。着莢期から約10日間隔で2～3回薬剤防除を実施する。
- (4) アズキにおける吸実性カメムシ類の防除は、開花期直前から約10日間隔で2～4回実施する。
- (5) 薬剤散布の際は、薬剤が莢によくかかるよう丁寧に散布する。

農薬の使用に当たっては、ラベルおよび最新の使用方法や注意事項を確認してください。また、各薬剤の使用回数を守るとともに、同一成分を含む農薬の総使用回数についても注意してください。